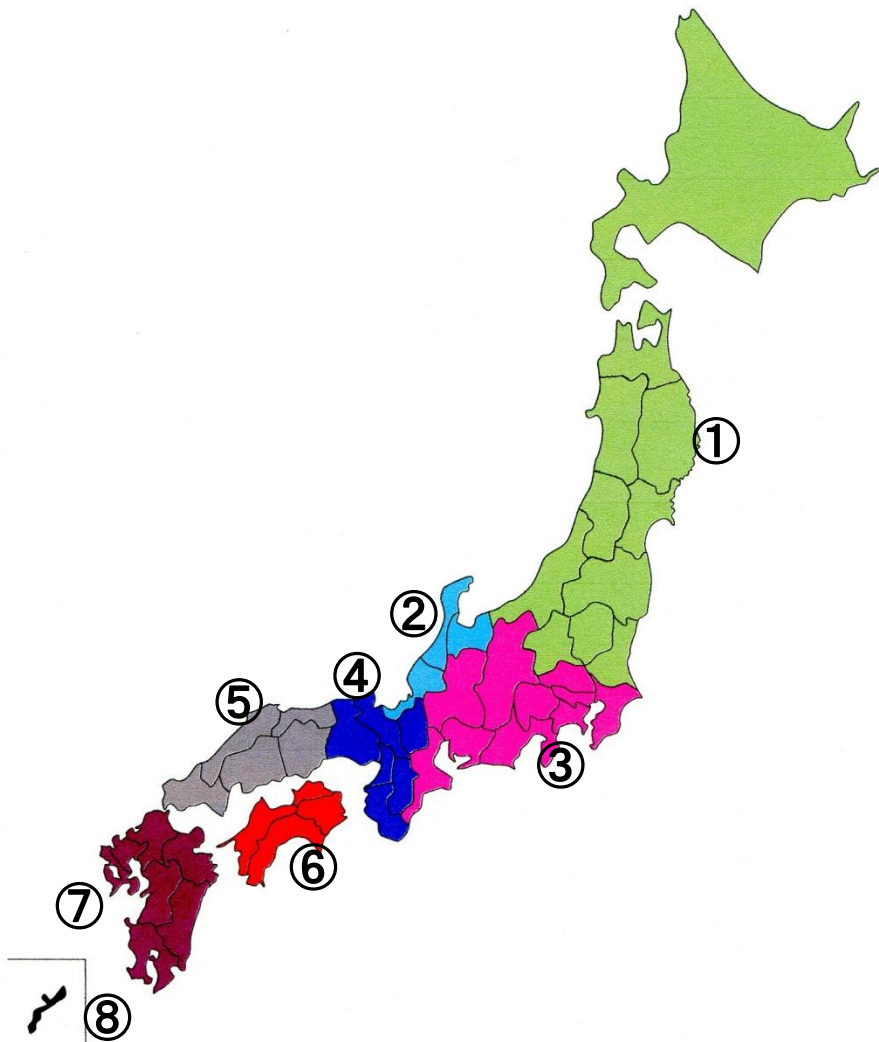
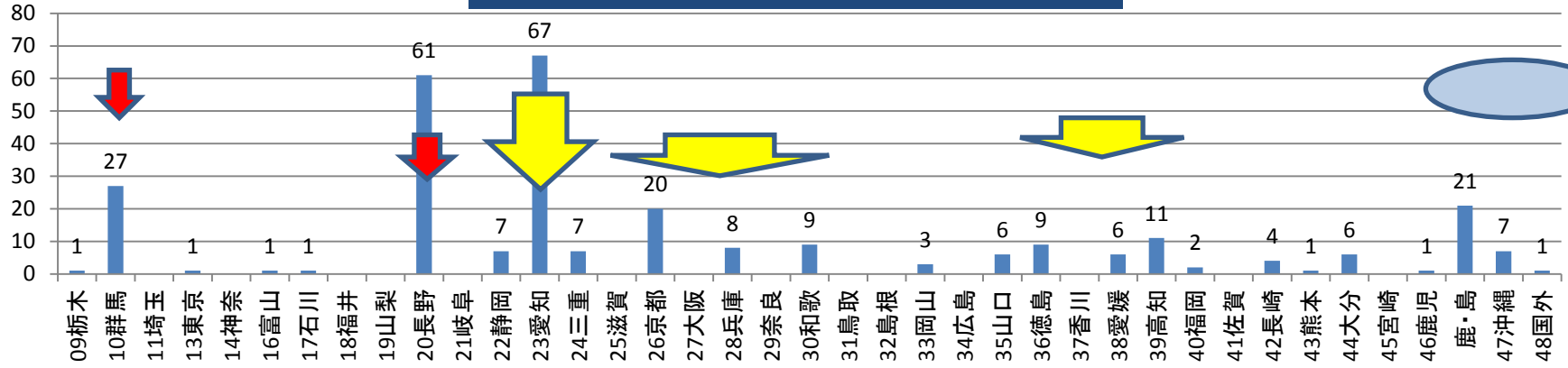


アサギマダラ南下の軌跡・2015年



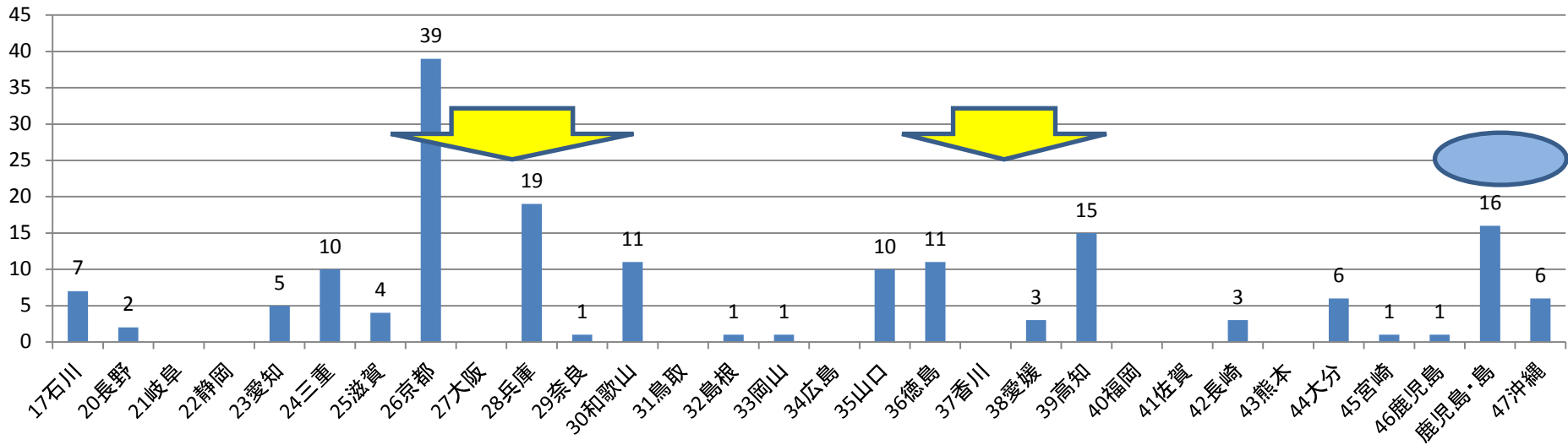
- ① 北日本:群馬県以北
- ② 北陸:富山・石川・福井
- ③ 関東・中部:北日本と北陸を除く
- ④ 近畿:6府県
- ⑤ 中国:5県
- ⑥ 四国:4県
- ⑦ 九州:鹿児島県の島嶼を除く
- ⑧ 南西の諸島:
鹿児島県の島嶼と沖縄県

①北日本発の再捕獲2015



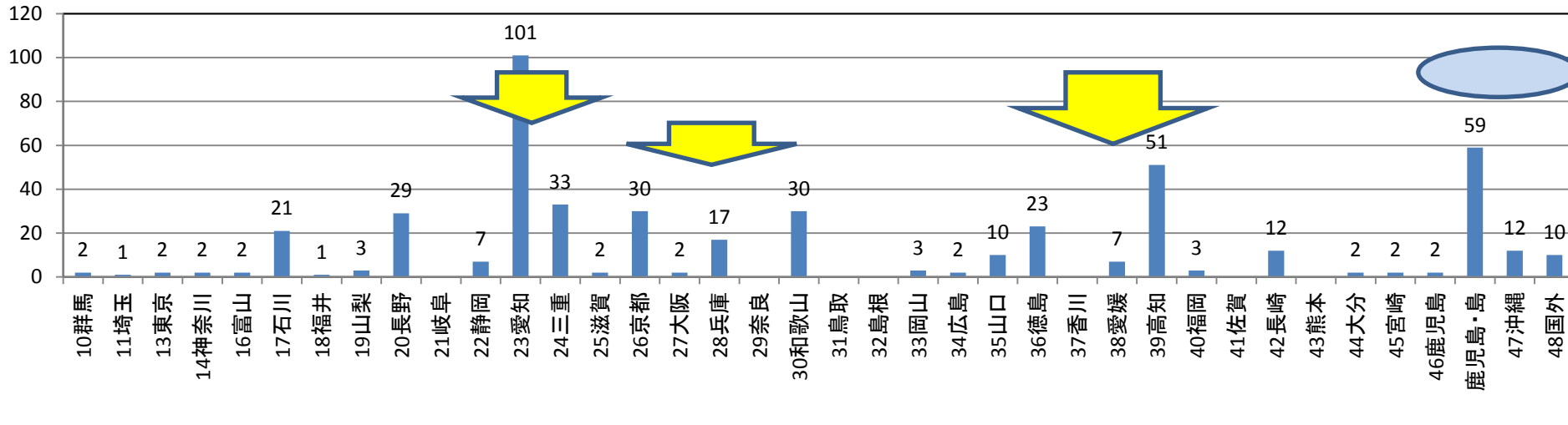
- 北日本とは、群馬県以北の地域を指している。
- 北日本で標識されたアサギマダラは、群馬県(9.3%/全国)から長野県(21.1%/全国)へ南下するものが多いらしく、日本海側の北陸や、太平洋側の関東平野では少ない。
- 東海三県で再捕獲されたものは28.1%(/全国)に達しており、最大の南下ルートとなっている。
- 近畿でも12.8% (/全国) が再捕獲されているところから、山地伝いに南下するものもあるらしい。
- 中部や近畿から先は、和歌山や四国から海上に出るものが多いらしく、中国や九州での再捕獲は多くない。九州以南では、鹿児島県や沖縄県の島嶼での再捕獲が多い。

②北陸発の再捕獲2015



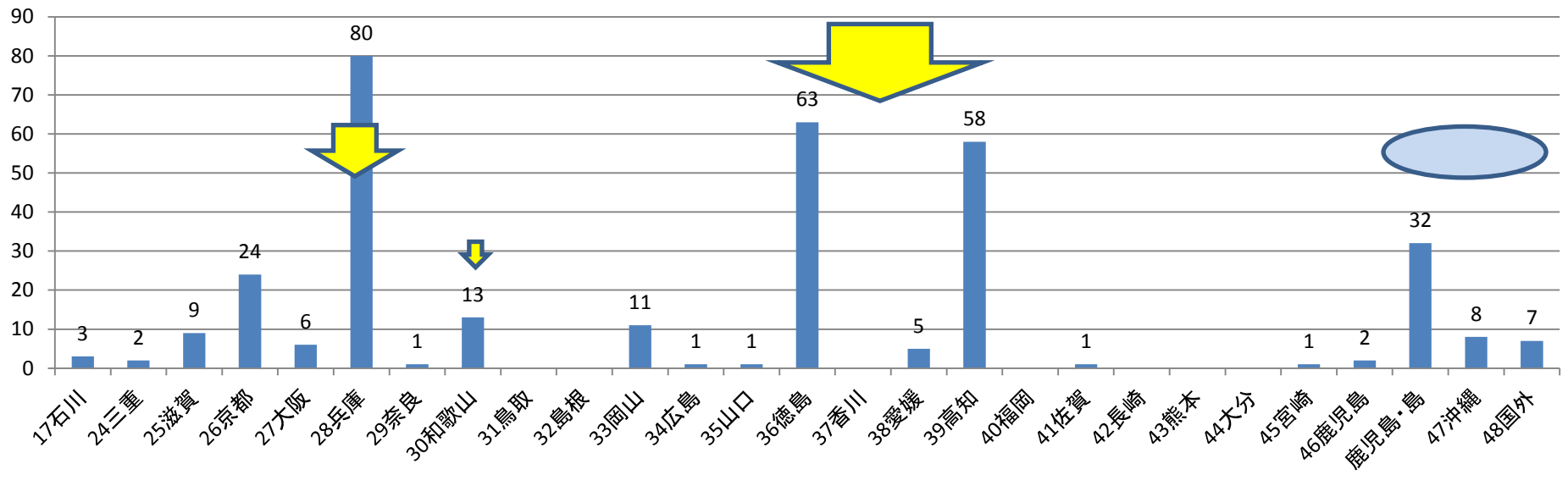
- 北陸とは、富山・石川・福井を指している。
- 北陸からは、当然ながら近畿への流入が圧倒的に多く43% (全国) を占めている。中部や中国・九州はいずれも10%未滿で、和歌山や四国(16.9%)から海上に出るものが多いと思われる。
- 鹿児島や沖縄の島嶼では12.8%の再捕獲があった。

③ 関東・中部発の再捕獲2015



- 関東・中部とは、北日本地域を除く関東、および北陸を除く中部地域を指している。
- 隣接する北陸での再捕獲は多くない。東海 三県には非常に多く(29.2 %/全国) 次いで近畿でも 16.8% %(/全国) 再捕獲されている。中国・九州はいずれも 10% 未満で、多数が四国へ流れるものと思われ、四国では16.8%(/全国) が再捕獲されている。
- 南西の鹿児島・沖縄の島嶼での再捕獲も非常に多く、14.7% %(/全国) に達している。
- 四国の西南端にある高知県大月町の柏島は、本土で最初に黒潮が接岸する地とされており、アサギマダラが多数集まるパワースポットとして知られている。

④近畿発の再捕獲2015

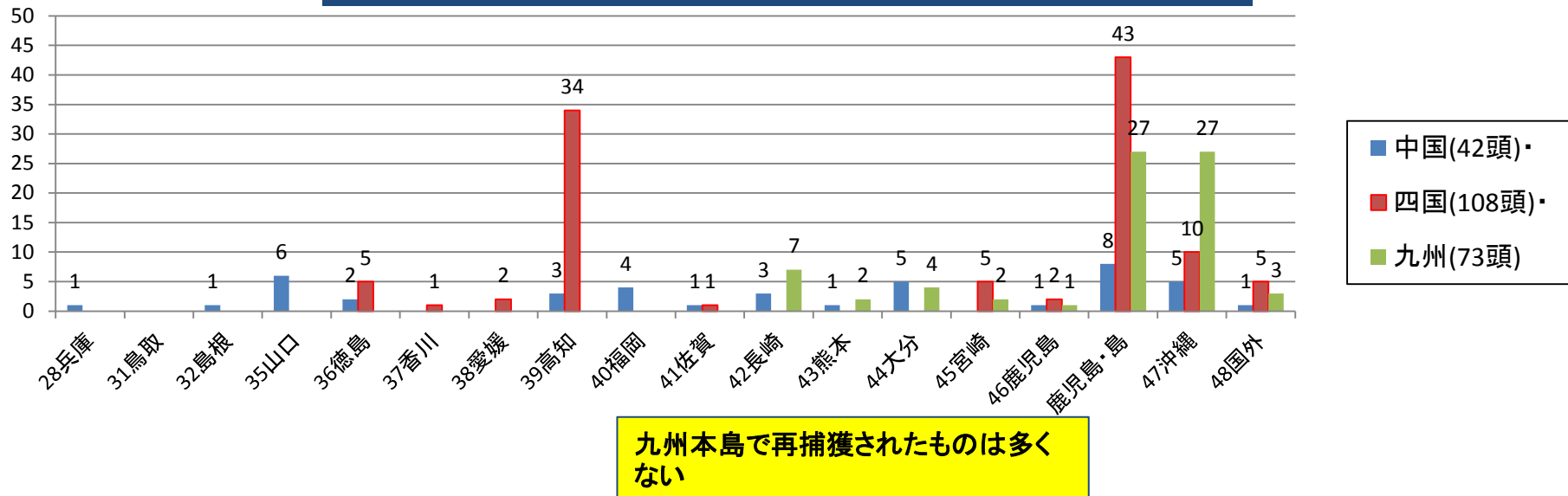


● 近畿の特徴は、京都では大規模なフジバカマ栽培が数か所でなされており、兵庫県の武庫川にはミズヒマワリが繁茂している等、アサギマダラを誘引する植物が多いという特別な事情がある。また、比良山系を中心にして、夏季のマーキング調査の歴史が長いので、アサギマダラ愛好者も多い。

● 標識されたアサギマダラの多くは四国に渡り、海に出るものと思われるが、一部は和歌山から海上に出るものもあるのだろう。

● 中国や九州に立ち寄るものは少ないらしく、再捕獲は稀である。ただし、岡山県には熱心な女性のアサギマダラ愛好家グループがあり、成果を上げたようだ。

⑤中国・⑥四国・⑦九州からの再捕獲2015



- これらの地域で標識されたアサギマダラが再捕獲されたもののうち、53.8%が、鹿児島県の島嶼と沖縄県で記録されている。
- 四国の再捕獲が多いのは、徳島県と高知県にマーキングする人が多いのが要因になっていると思われる。
- 四国からは、九州を経由しないで、直接海上に飛び出すものが多いと思われる。

アサギマダラの移動の軌跡・2015年

- 台湾での再捕獲は含めていない。
- 北日本のアサギマダラの主流は、群馬県から長野県に入り、東海三県を出口として、近畿 ⇒ 四国から海上 ⇒ 南の島々という構図が見える。
- 中には中部地方や和歌山県からも海上に出たものがあるだろう。
- 2015年の特徴は、10月後半以降、高温と晴天が続き、北東の風が強い日が多かったことである。アサギマダラは風を利用して旅をする。